４．実証研究の具体的な実施内容及び実施方法等

＜実施内容＞
研究の経過及び内容は、次のとおりである。

期　日	内　容（概要）
７月　２日	研究推進協議会委員による機械科授業視察（株式会社宮原製作所） 第１回学校運営協議会及び研究推進協議会 〇学校運営協議会 ・学校運営方針の承認 ・学校の取組に対する意見交換 〇研究推進協議会 ・令和４年度以降の学校運営方針の構想に係る説明 ・各ワーキンググループ（以下「ＷＧ」という。）での意見交換
８月２６日 ８月２９日	ＷＧ委員会（実施可能な取組を短期・中期・長期的視点で協議） 〇ＷＧ１（企業連携）（第１回） ・バス停のベンチ設置についての検討 ・デュアルシステムの導入やコンソーシアムの構築の検討等 〇ＷＧ３（ボランティア活動連携）（第１回） ・循環型、課題解決型ボランティアの必要性の共通理解 ・瀬戸内国際芸術祭での地元特産品販売や古民家の改装企画の検討 〇ＷＧ２（小中学校との連携）（第１回） ・異世代間交流の必要性についての共通理解 ・合同挨拶運動、スマホ学習会の企画の検討等
９月１７日	研究推進協議会委員によるビジネス情報科授業視察
１０月１５日 １６日	県外先進校視察 ・名古屋市立名古屋商業高等学校（協力企業確保と持続的な地域連携の在り方） ・長野県立飯田ＯＩＤＥ長姫高等学校（組織的な地域連携の在り方）
１１月　５日	研究推進協議会委員による機械科授業視察（株式会社三井Ｅ＆Ｓホールディングス）
１１月１４日	第２回学校運営協議会及び研究推進協議会 〇学校運営協議会 ・学校評価書中間評価の実施 ・県外学校視察報告 〇研究推進協議会 ・生徒による地域と連携した活動報告 ・各ＷＧでの意見交換
１１月１８日	ＷＧ委員会 〇ＷＧ３（ボランティア活動連携）（第２回） ・ビジネス情報科の授業（「ビジネス経済応用」）への参加
１２月２５日	ＷＧ委員会（次年度の実施可能な取組を協議） 〇ＷＧ２（小中学校との連携）（第２回）

		・玉野市立玉中学校との合同スマホ学習の企画 ・小中学校に向けての未来手帳活用出前講座の企画	
	１月１４日	○ＷＧ３（ボランティア活動連携）（第３回） ・「キッズビジネスタウンたまの」のリニューアル化 ・築港商店街と連携したイベントの実施	
	１月２７日	○ＷＧ１（企業連携）（第２回） ・ビジネス情報科のデュアルシステム化の検討 ・「課題研究」の深化についての協議	
	２月１７日	第３回学校運営協議会及び研究推進協議会 ○研究推進協議会 ・各ＷＧでの意見交換、情報共有 ・一年間の振り返り検証、協議 ○学校運営協議会 ・学校評価書最終評価の実施 ・令和２年度学校グランドデザインの提示、承認 ・令和４年度に向けた教育課程案の提示、承認 ・令和２年度学校行事及び組織編成の提示、承認 ・職員の任用に関する意見具申の確認 ・規約の改訂の提示、承認	
	３月　３日	研究成果発表会（中止） ○生徒発表 ・今年度実践事例の紹介等 ○研究推進協議会委員発表 ・研究の概要 ・研究の経過と内容 ・研究の成果と課題	

＜実践的な取組＞

（１）従来の活動の拡充

ア．企業連携の取組

【インターンシップ発表会の充実】

インターンシップ実施後は、報告書の作成、クラス発表会、校内発表会を行うが、校内発表会では、受け入れ事業所にも参加を呼びかけた。参加した事業所からは、「この発表会は一般公開しても良い」「自社の教育内容を見直すきっかけになった」など前向きな意見があり、地域で学習するフィールドが広がっている実感を得られた。今後は、一般公開や校外での発表などに加えて、地域企業等と連携したデュアルシステムの導入を視野に考えていく必要がある。

イ．小中学校との連携の取組

【小中学校との接続を意識したキャリア教育の充実に向けて】

研究推進協議会のＷＧ２（小中学校との連携）の議論では、来年度、小中高連携 キャリア教育の一環として未来手帳（本校独自のスケジュール帳）を活用した一日のスケジュール管理の出前講座を希望するという案が出た。さらに、プログラミングやドローンを使った授業を生徒が行う出前講座も提案され、それらが持続可能な取組になるカリキュラム編成を行う予定である。

ウ．ボランティア活動連携の取組

【機械科とビジネス情報科の初コラボレーション】

昨年度、ビジネス情報科が作成した観光案内図「すみたまっぷ」を機械科がアクリル

板印刷加工し、多くの来場者にプレゼンテーションを行った。また、外国人観光客に英語と身振り手振りを交えてコミュニケーションを行った。

【ステージ内容の新規企画・運営】
実行委員会からの依頼を受け、ステージの内容を新規に企画し、運営した。新たに企画した内容は次のとおりである。生徒会による玉野商工活動トークショー、機械工作部による学科紹介。ビジネス経済応用選択者による商店街の生ＣＭインタビューなど。

【図書委員会による初の企画実施】
市図書館の依頼を受け、図書館司書による指導を受け、図書委員会が幼児に対する絵本の読み聞かせや絵本クイズ等、様々な工夫をして企画実施した。

【宇野港魅力化の取組】
玉野青年会議所の依頼を受け、瀬戸内国際芸術祭夏会期に合わせた竹あかりの設置を、全体のレイアウトを考え、行った。青年会議所の会員と交流し、宇野港の魅力化に取り組んだ。

【研究推進協議会委員と生徒によるコラボレーション】
ＵＮＯＩＣＨＩ実行委員会の依頼を受け、瀬戸内国際芸術祭公式フード「たまののたまべん」の販売に参加した。研究推進協議会委員のコーディネートのもとで彩りや形にこだわった食材詰めや観光客に向けた広報活動も行った。

【課題解決型ボランティアへのチャレンジ】
県備前県民局と市協働推進課の依頼を受け、傘をアートのテーマとした深山公園アンブレラプロジェクトをビジネス情報科３年課題研究の「デザイン制作」グループが取り組んだ。テーマにもとづき、デザインやアイデア、作品内容、現地調査、設置作業など試行錯誤しながら、２か月の長期にわたる課題解決型ボランティアを行った。

【活性化に向けた活動の拡大】
玉野市の深山公園内にあるイングリッシュガーデンの活動スペースにおいて、課題研究「商品開発」グループの販売の他、家庭科部、書道部、報道部、図書委員会、ビジネス経済応用選択者、雄心祭（文化祭）の展示などを行い、活動を大きく広げた。

（２）新たな活動の創出

ア．企業連携の取組

【バス停の整備】
第１回研究推進協議会のＷＧ１（企業連携）の協議の中で、企業と生徒が協働し、地域貢献できる活動を模索した。その中で、バス停の整備でベンチ（ＣｏＣｏＬｏベンチ）の設置に向けた取組の提案が行われた。ビジネス情報科の生徒がバス停の調査を行い、機械科が作成、地元企業が材料の提供や切断加工等の技術指導を担うなどの可能性を探った。今年度は、９月にビジネス情報科３年課題研究の授業で、「地域のデザインをする」をテーマにバス停の調査を行い、問題点の洗い出しを行うとともに、機械科の生徒が、企業からの材料の提供や切断加工等の技術指導を受けてベンチを試作した。今後は、市の道路管理課等関係各所との相談調整で設置に向けた準備を行う予定である。

イ．小中学校との連携の取組

【玉野市立玉中学校との合同スマホ学習会の企画】
第２回学校運営協議会及び研究推進協議会のＷＧ２（小中学校との連携）の協議の 中で、生徒が中高生の共通するスマホの問題について話し合いたいと提案し、玉野市立玉中学校との合同スマホ学習会（ＣｏＣｏＬｏ学習会）を行うことを決定した。その後のＷＧの委員会で、今年度中に共通の課題を洗い出すためのアンケートを高校生が企画実施し、互いの課題の情報共有を行い、目標設定することを決定した。
来年度は、合同スマホ学習の実施とスマホ利用のルールづくりを進めていく予定である。

ウ．ボランティア活動連携の取組

【ボランティア通信（ＣｏＣｏＬｏ通信）の作成】
地域連携担当教員が、活動内容を「見える化」し、教職員と生徒の参画意識を高めるため「ボランティアのＣｏＣｏＬｏ（ＣｏＣｏＬｏ通信）」を発行した。ボランティア名称、日時、参加生徒・教職員数、参加生徒の気づきや意見、主催者からの声、今後のボランティア日程などを掲載し、１２月までに１２回発行した。Ａ３サイズでカラー印刷したものは教室掲示し、教職員には参加生徒・教職員名が入ったもの、近隣中学校へは「ＣｏＣｏＬｏ通信」の名称で配付し、本校のボランティア活動について

情報提供を精力的に行った。今後は、生徒や地域の関係者と共に作成、発行に当たることを検討している。

【大学生や他校生徒と連携したボランティア活動】
研究推進協議会委員や本校卒業生がメンバーで活躍しているＵＮＯＩＣＨＩ実行委員会の企画ＳＯＳ（SaveOurSea）プロジェクトに生徒が参加し、大学生や他校生徒とともに清掃　　活動を行った。ＳＤＧｓの視点から、様々な地球環境問題を考える機会となった。また、３年ビジネス情報科の課題研究で携帯ゴミ箱の作成し販売を行った。

【「キッズビジネスタウンたまの」の改善に向けた動き】
「キッズビジネスタウンたまの」は、「子どもたちが創る子どもたちの街」の理念のもとで、市役所や地域の企業等と連携し、「みんなで働き、遊ぶことを通して、共に協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」キャリア教育の一環としての地域協働活動であり、今年度で８回目を迎えた。１１月２日に実施した後、この活動の主体であるビジネス情報科３年生が、来場者等のアンケートを分析し、待ち行列の対応、店舗設計、陳列方法、役割分担、体験 ブースの増設、ニーズを踏まえたブースの企画等を課題として抽出した。生徒は、この活動を通じて、「自分たちでゼロからつくりたい」という思いを強く抱くようになり、第２回の研究推進協議会の場で委員に伝えた。その後のＷＧ３（ボランティア活動連携）の議論では、「自分たちで考えた企画にプロのアドバイスをもらえる とより本物に近づく」「ブースを増やすには人手が必要」などの意見が出された。これを踏まえて、生徒と委員が協議する中で、「１年生もこの活動に参加」「プロのアドバイスを受けるには地域住民や企業にも参加が必要」「ブース増加にもつながる」「空き店舗や商店街で展開すればより本物に近づけることができる」「ブースの魅力化や地域の活性化につながる」等、改善の方向性を見出した。すでに来年度からの参加希望の企業もあり、また、小学生や保護者のこのイベント対する需要も高く、本校の生徒のＧＲＯＷ ＵＰシート評価も成長度が高い。今後は、九つの育成したい資質・能力を伸ばす取組としてカリキュラムに組み入れることを考え、第１０回に向けて来年度以降、生徒の参画によりリニューアルさせる予定である。

＜実施方法＞

【ＷＧの活用】
ＷＧは、連携先別にＷＧ１（企業連携）、ＷＧ２（小中学校との連携）、ＷＧ３（ボランティア活動連携）の三つを設置し、各研究推進協議会委員から具体的な意見を集約しやすいようにした。
実際の運用では、研究推進協議会委員とともに事務局である本校教職員もＷＧに加えた（合計３４名）。また、生徒の意見も取り入れるべきだという委員の意見により、年度途中から生徒をＷＧ等の協議に加えた。

【取組の評価】
取組の評価については、学校自己評価アンケート、ルーブリック評価、ＧＲＯＷ ＵＰシート評価、学校運営協議会委員及び研究推進協議会委員の本校に対する意識調査、行事（取組）ごとの外部評価（地域住民・地域企業等）等で行った。